松原市セーフコミュニティ

# 子どもの安全対策委員会
# 活動報告

― 再認証現地審査 ―

報告者
子どもの安全対策委員会　委員長　北田　敦史
所属 ： 松原青年会議所　直前理事長

# 対策委員会設置の背景

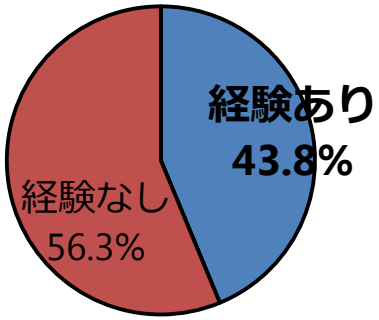
## 就学前児童、小学生の約３割が けがにより医療機関を受診している

**（図表１ ： 過去１年間における医療機関を受診したけがの経験）**

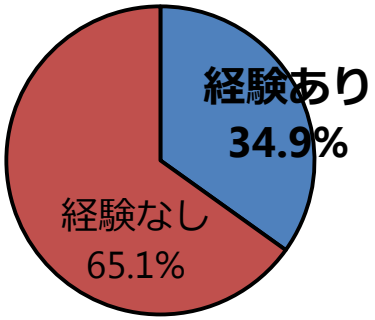
（ 出典： けが及び安全安心に関する実態調査 アンケート）

2011年　　2017年

就学前児童

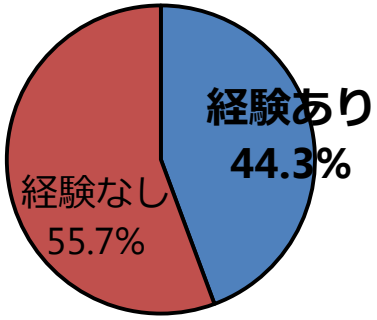



**8.9%減少**

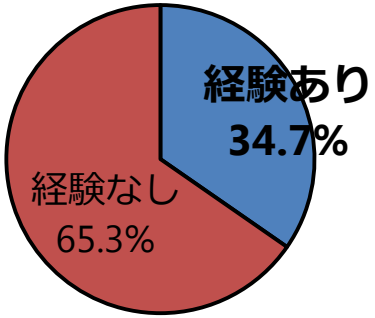



（就学前児童のいる世帯　n=96）　　（就学前児童のいる世帯　n=86）

小学生




**9.6%減少**



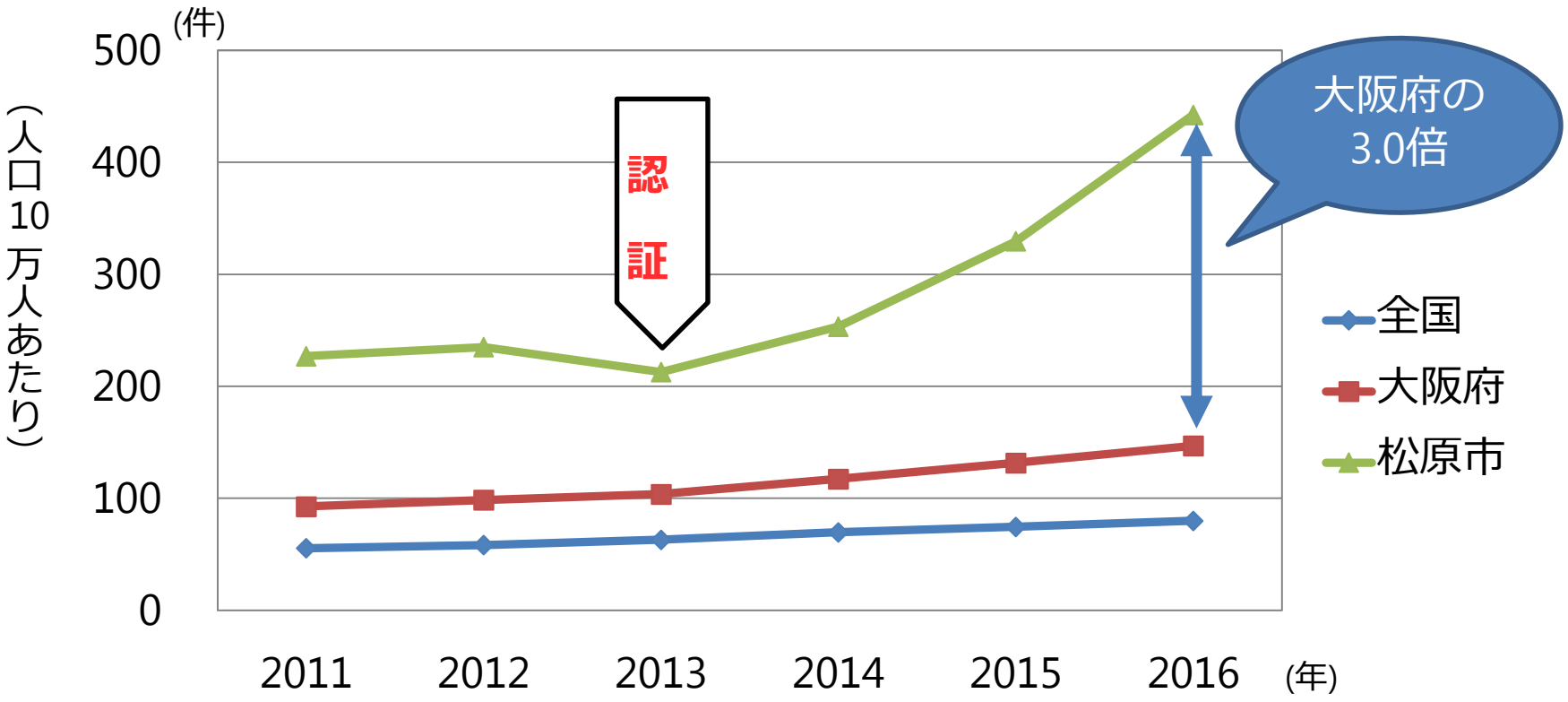

（小学生のいる世帯　n=115）　　（小学生のいる世帯　n=101）

# 対策委員会設置の背景

## 全国・大阪府と比べて児童虐待相談件数が多い傾向にある

**（図表２： 人口10万人あたりの児童虐待相談件数）**

（ 出典： 厚生労働省・大阪府・松原市福祉行政報告例 ）



# 子どもの安全対策の必要性

・就学前児童、小学生の約３割が
けがにより医療機関を受診している
（図表１）

・松原市は全国・大阪府と比べて
児童虐待相談件数が多い傾向にある
（図表２）

**子どもの安全対策委員会の設置**

# 対策委員会の構成

## 市民団体　13名

- 松原青年会議所
- 松原市青少年指導員協議会
- 松原市PTA協議会
- 松原市こども会育成連絡協議会
- 松原市民生委員児童委員協議会
- 松原市更生保護女性会

**総勢28名**

## 関係機関　3名

- 松原市校長会
- 松原市立幼稚園長会
- 松原市立保育所長会

## 行政機関

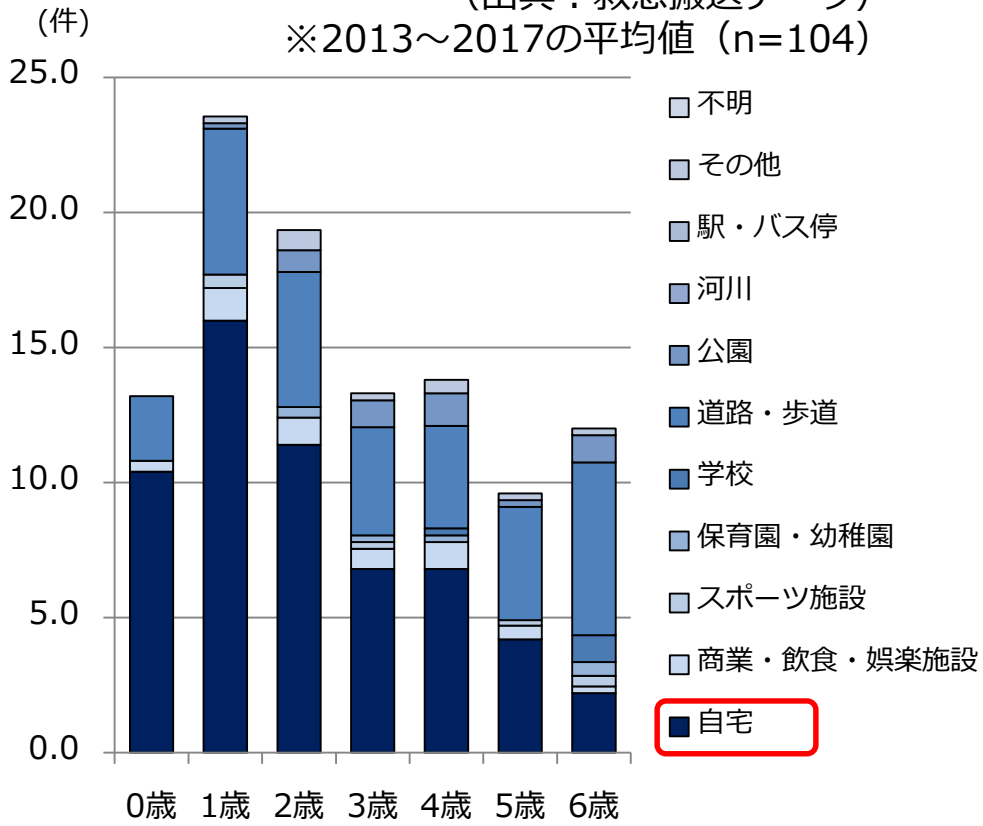
**12名**

# データに基づく客観的課題

## 就学前児童のけがは自宅内で多く
## 転倒・転落によるものが多い

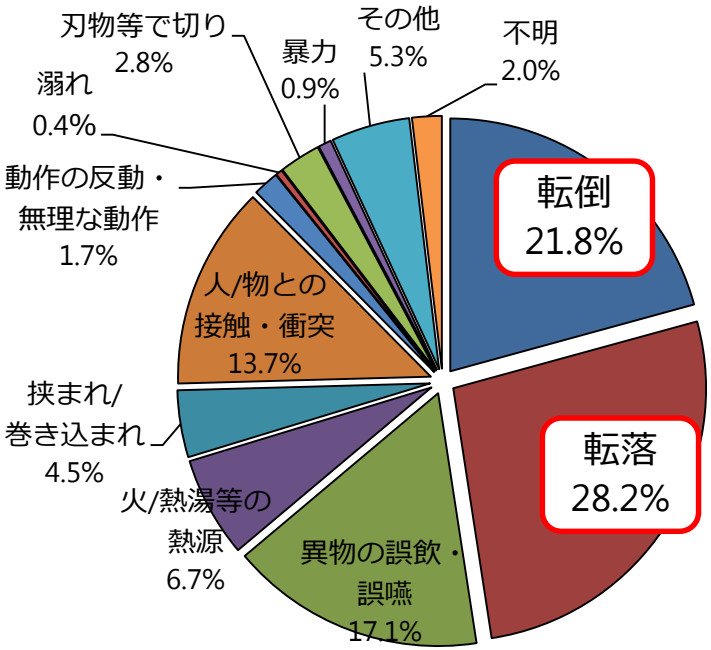
**（図表３： 受傷場所別件数）**

（出典：救急搬送データ）
※2013～2017の平均値（n=104）




**（図表４： 就学前児童の自宅での受傷要因）**

（出典：救急搬送データ）
※2013～2017の平均値（n=58）

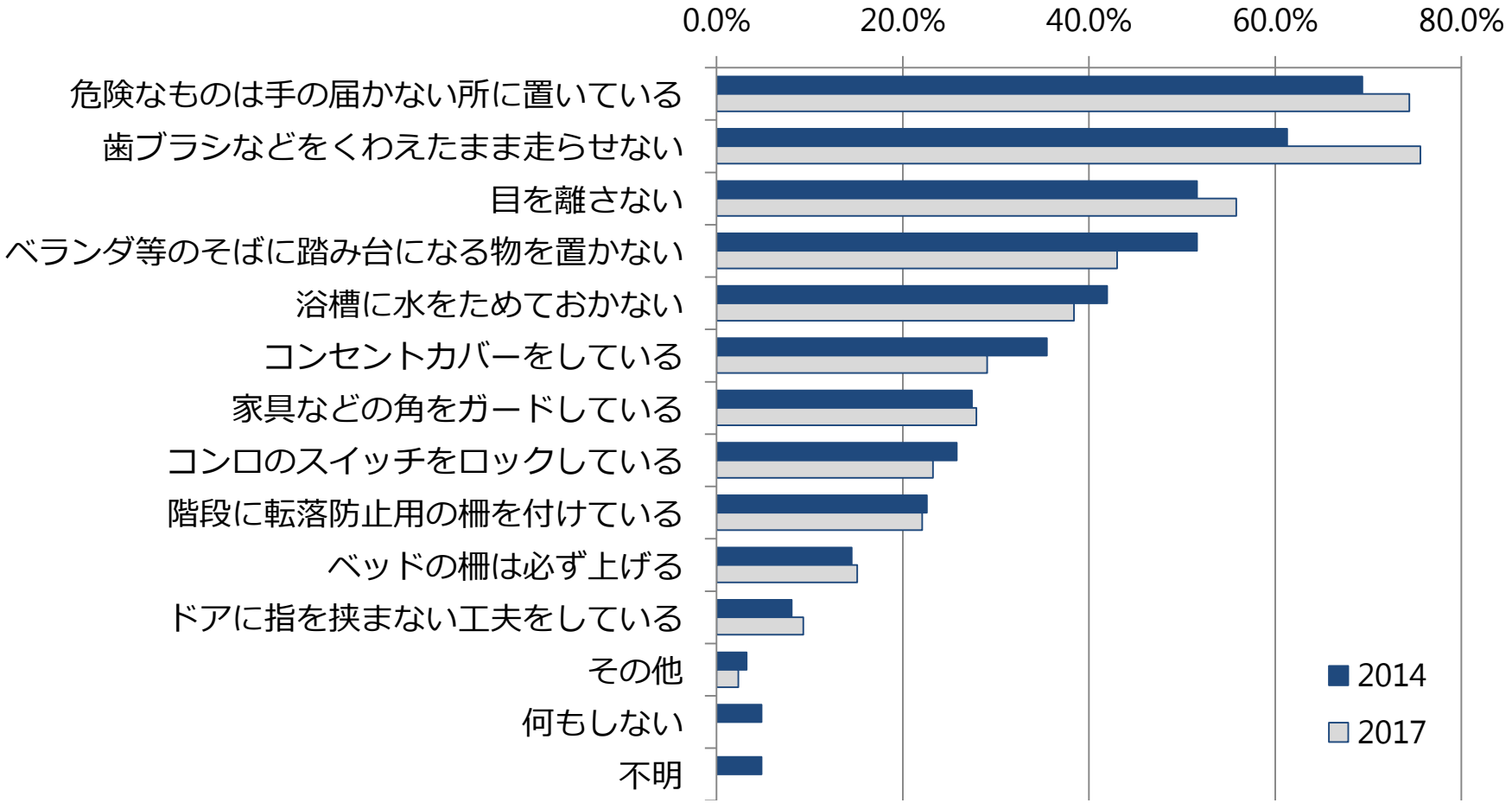


# データに基づく客観的課題

## 自宅内での事故予防が不十分

**（図表５　：就学前児童の自宅内での事故予防対策）**

（ 出典 けが及び安全安心に関する実態調査 アンケート）：2014 （n=262） 2017 （n=358）

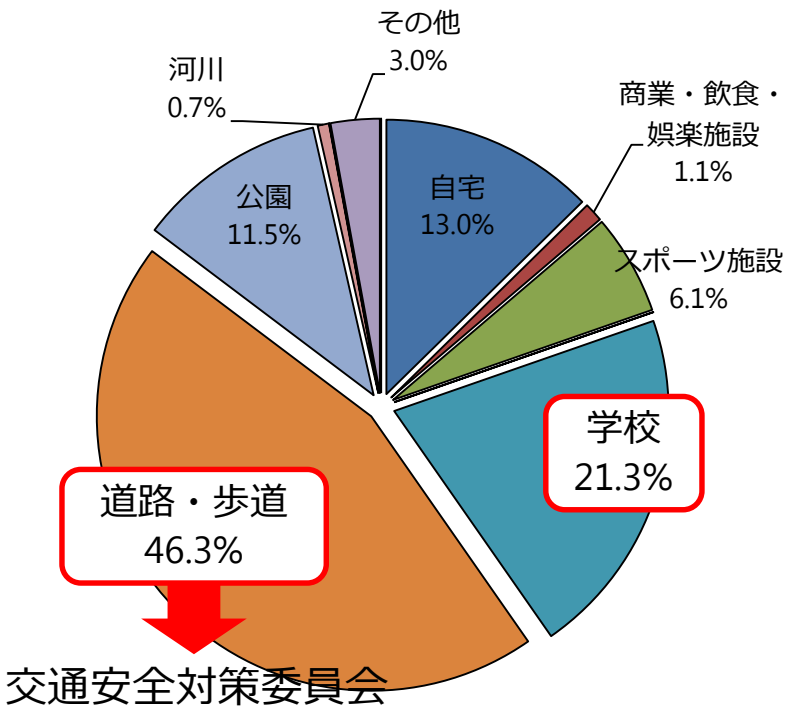


# データに基づく客観的課題

## 小学生の学校でのけがは、
## 接触や転倒・転落によるものが多い

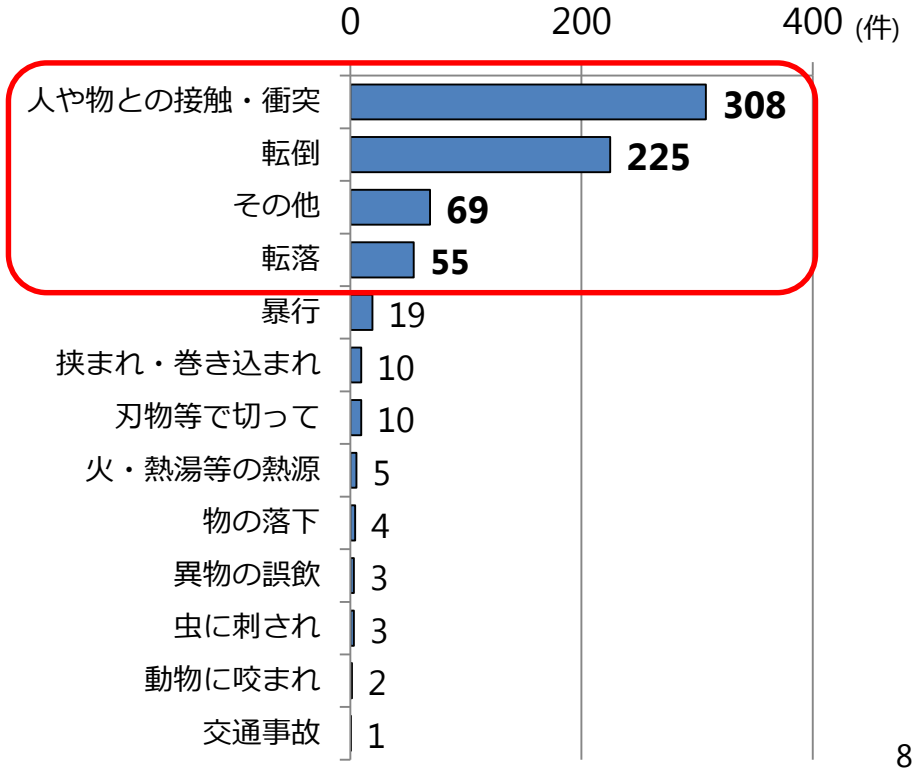
**（図表６： 小学生の受傷場所）**

（出典：救急搬送データ）
※2013～2017の平均値（n=66）




**（図表７： 小学生の受傷要因）**

（出典：学校災害報告書）
※2013～2016の平均値

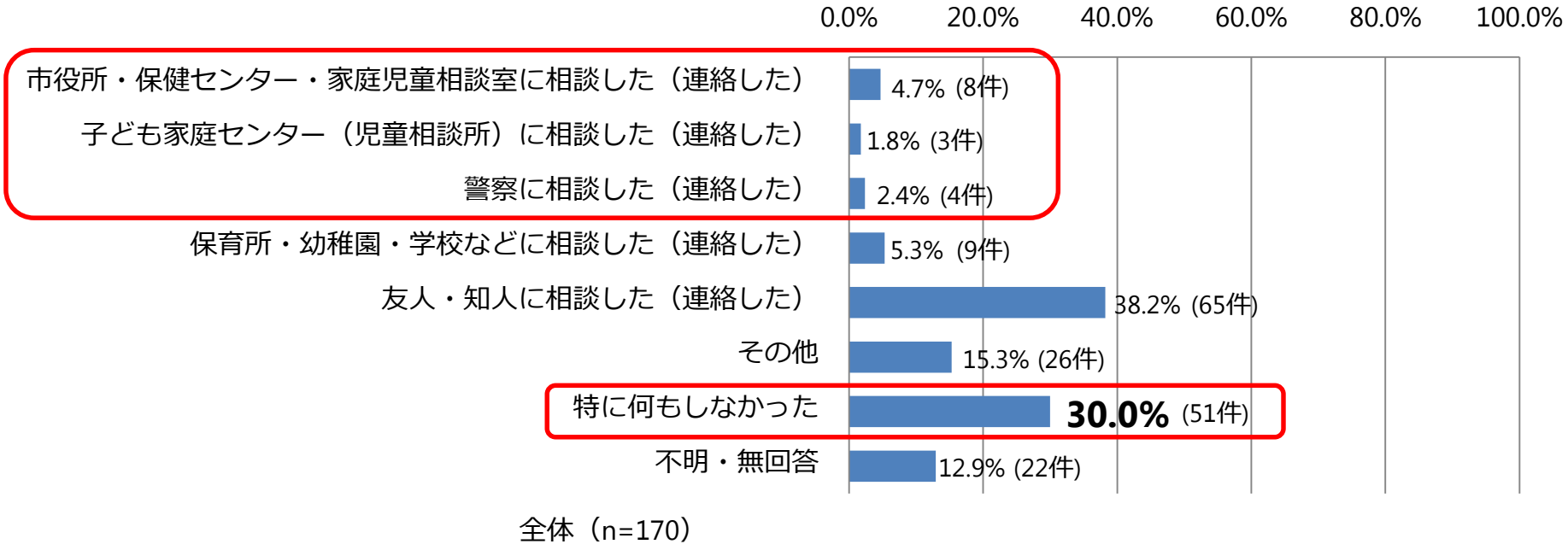


# データに基づく客観的課題

虐待を見聞きした際に
特に何もしなかった人が30%(51件)もいる
公的な相談機関に相談(連絡)する人はわずかである

**（図表８：虐待を見聞きした際の対応）**

（出典：2013年度 次世代育成支援に関するニーズ等調査）



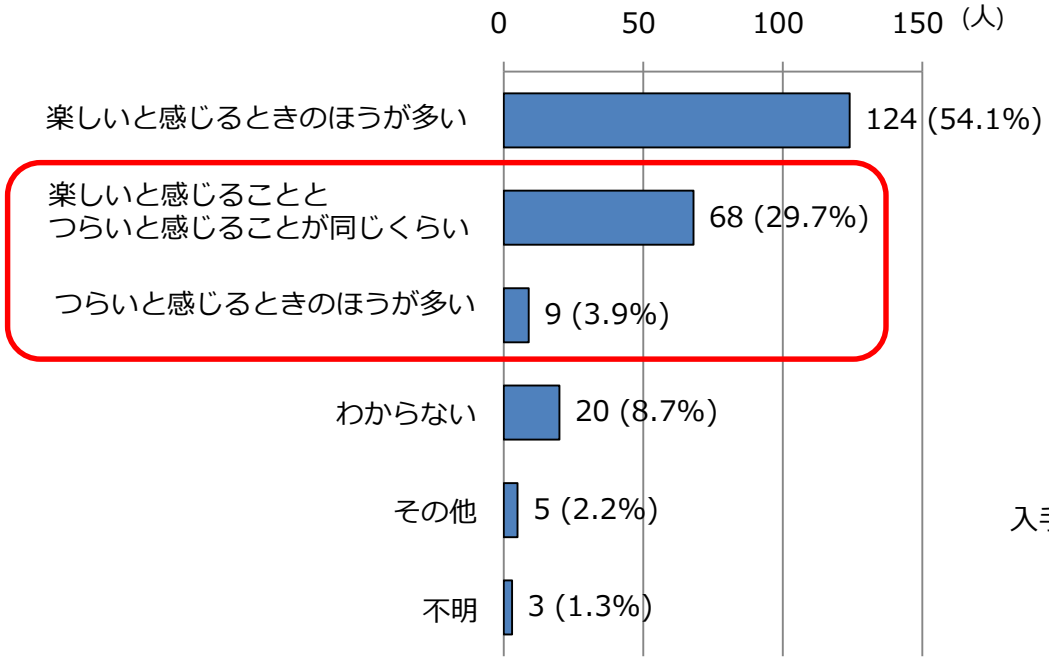
# データに基づく客観的課題

## 子育てをつらいと感じることがある人が約30%いる
## 子育て情報を入手しやすいと感じる人は約40%

**（図表９：子育てに関する意識調査）**

（出典：2017 けが及び安全安心に関する実態調査 アンケート）

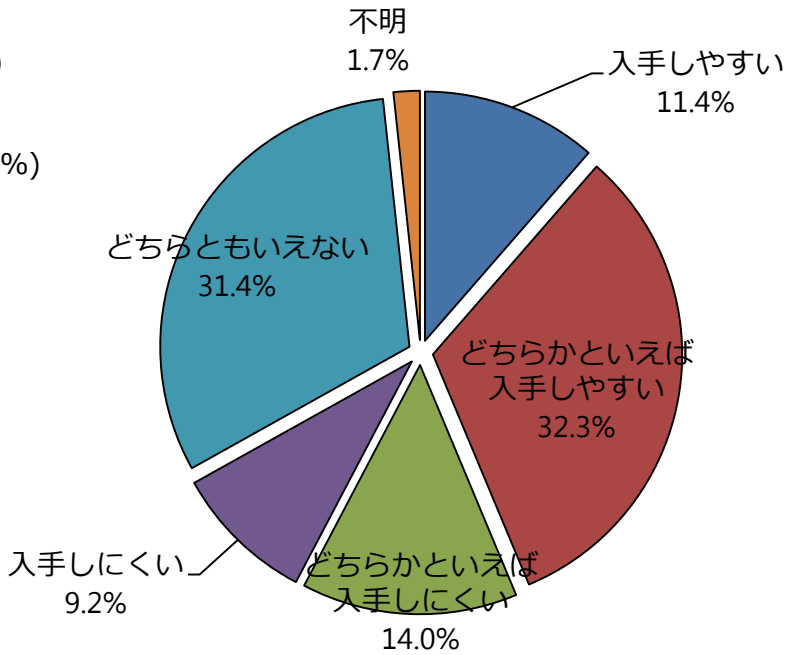
（n=229）




**（図表10：子育て情報の入手状況）**

（出典：2017 けが及び安全安心に関する実態調査 アンケート）

（n=229）



# 課題の整理

## 客観的課題

・就学前児童のけがは自宅内で多く、転倒・転落によるものが多い　（図表3・4）
・自宅内での事故予防が不十分　（図表5）
・小学生は学校での、接触や転倒・転落によるけがが多い　（図表6・7）
・虐待を見聞きした際に、特に何もしなかった人が30%もいる　(図表8)
・公的な相談機関に相談する人はわずかである　（図表8）
・子育てをつらいと感じることがある人が約30%いる（図表9）
・子育て情報を入手しやすいと感じる人は約40%　（図表10）

## 主観的課題

・地域のつながりの希薄化から相談できる人が周りにおらず子育ての負担が大きくなっている
・虐待を見聞きしても、相談する機関をあまり知らないのではないか

# 重点課題の決定

# 重点課題

【課題①】

就学前児童は自宅内での転倒・転落によるけがが多いが、十分な安全対策をしている家庭は少ない。

【課題②】

小学生は学校での接触や転倒・転落によるけがが多い。

【課題③】

虐待を見たり聞いたりしても、関係機関等に相談する人は少なく、家族や近隣知人からの相談も比較的少ない。

【課題④】

子育ての負担感は大きく、子育て支援サービスの情報を入手しやすいと感じる人は約40%。

# 重点課題に対する取り組み

**課題①**

就学前児童は自宅内での転倒転落によるけがが多いが、十分な安全対策をしている家庭は少ない。

**課題②**

小学生は学校での接触や転倒・転落によるけがが多い。

**課題③**

虐待を見たり聞いたりしても、関係機関等に相談する人は少なく、家族や近隣知人からの相談も比較的少ない。

**課題④**

子育ての負担感は大きく、子育て支援サービスの情報を入手しやすいと感じる人は約40%。

**方向性①**

就学前児童の自宅内でのけが予防に対する意識向上

**方向性②**

校内のけがの予防意識の向上

**方向性③**

相談機関の認識度の向上と子育て情報の発信強化

**取組①**

- **自宅内の事故予防啓発**

**取組②**

- **校内安全マップづくり**
- **校内安全マップに基づく施設改善**

**取組③**

- **相談機関の周知**
- **子育て情報の発信**

# 課題①に対するレベル別の対策

| 課題 | 対策 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 方向性 | 国・府レベル | 市レベル | 地域レベル |
| (課題①)<br><br>就学前児童は自宅内での転倒転落によるけがが多いが、十分な安全対策をしている家庭は少ない。 | 教育・啓発 | | 対策委員会<br>自宅内の事故予防啓発<br><br>・インストラクターによる体操の実施 | |
| | 規制・罰則 | ・子どもを事故から守る！プロジェクト | | |
| | 環境整備 | ・子どもの事故防止ハンドブック<br>・子ども安全メール、SNS | | |

# 課題②に対するレベル別の対策

| 課題 | 対策 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 方向性 | 国・府レベル | 市レベル | 地域レベル |
| (課題②)<br><br>小学生は学校での接触や転倒・転落によるけがが多い。 | 教育・啓発 | | 対策委員会<br>校内安全マップづくり | |
| | 規制・罰則 | ・学校保健・学校安全に関する関係法令等 | | |
| | 環境整備 | | 対策委員会<br>施設改善<br>・施設整備<br>・施設・遊具の点検 | ・施設・遊具の点検 |

# 課題③に対するレベル別の対策

| 課題 | 対策 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 方向性 | 国・府レベル | 市レベル | 地域レベル |
| (課題③)<br><br>虐待を見たり聞いたりしても、関係機関等に相談する人は少なく、家族や近隣知人からの相談も比較的少ない。 | 教育・啓発 | ・虐待防止ポスター<br>虐待防止パンフレット作成<br>・新子育て支援交付金 | 対策委員会<br>相談機関の周知<br><br>・子育てネット情報配信<br>・講演会の開催<br>・BPプログラム<br>・すくすくポイントカード | |
| | 規制・罰則 | ・児童虐待防止法<br>・大阪府子どもを虐待から守る条例 | ・要保護児童地域対策協議会の規則 | |
| | 環境整備 | ・児童相談所 | ・家庭児童相談室<br>・子育て支援センター<br>・子育てネットの構築 | |

# 課題④に対するレベル別の対策

| 課題 | 対策 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 方向性 | 国・府レベル | 市レベル | 地域レベル |
| (課題④)<br><br>子育ての負担感は大きく、子育て支援サービスの情報を入手しやすいと感じる人は約40% | 教育・啓発 | ・新子育て支援交付金 | 対策委員会<br>子育て情報の発信<br><br>・子育てネット情報配信<br>・BPプログラム<br>・松原市子育てすくすくポイントカード | |
| | 規制・罰則 | | | |
| | 環境整備 | | ・子育て支援センター<br>・子育てネットの構築 | |

# 既存の取り組み①

安心・安全な
雰囲気の
なかで！

親子の
絆づくり
を重視！

学習とディスカッション方式

**BPプログラムは、初めて赤ちゃんを育てている母親を効果的に支援・サポートする日本で誕生した参加者中心型のプログラムです。**

松原市では2013年度から取組んでいます。

出典「こころの子育てインターネット関西」

# 既存の取り組み②

## 松原市 子育て すくすくポイントカード

**対象** 未就園児1人につき1枚
（幼稚園、保育所等に通っていない就学前の児童）

### まずは ポイントカードをつくろう!

**申請場所**

- 子育て支援センター（あいあい・のびのび・わくわく）
- ひろば（きらきら・なごみ・わいわい）
- 市役所（子ども未来室）

### さっそくポイントを ためよう!

**ポイントがもらえる場所**

- 各支援センター、各ひろば
- 私立保育園（園庭開放）
- 公立保育所（園庭開放）
- 公立幼稚園（園庭開放）
- 認定こども園（園庭開放）
- 市で行われる子育てに関する講座

### ポイントがたまったら 賞品と交換しよう!

**賞品と交換したい時**

たまったポイントは個数に応じて賞品と交換できます。交換したい時はカードを支援センター（あいあい・のびのび・わくわく）、ひろば（きらきら・なごみ・わいわい）、市役所（子ども未来室）に持ってきてください。

# 方向性①に対する取り組み内容

| | | |
|---|---|---|
| 方向性① | | 就学前児童の自宅内でのけが予防に対する意識向上 |
| 目標 | | 自宅内のけがの件数の減少 |
| 内容等 | 実施内容 | リーフレット等によるけがの発生場所についての情報発信 |
| | 財源 | 市 |
| | 対象 | 就学前児童を持つ保護者 |
| | 活動 | ・カレンダー「あんあん」の作成、配布<br>・ヒヤリはっとアンケートの実施、掲示 |
| | 人材 | 対策委員、幼稚園、保育所、医療機関、市 |

# 子育て情報の発信

自宅内の事故防止方法や
虐待の相談先を掲示した
リーフレット「あんあん」を作成

**「リーフレット」から**
**「カレンダー」へ**

2017年～　カレンダーであれば一年間同じ場所に掲示してもらえるのではないかという対策委員会の意見をもとに作成、配布。

・**子育て情報の発信拠点が増えました。**
**まつばらテラス（輝）１階**

キラキラひろば

# ヒヤリはっとアンケート

- １歳７か月児健康診査
- ２歳児歯科健康診査
- ２歳６か月児歯科健康診査
- ３歳６か月児健康診査時に保護者にアンケートを実施

アンケートの結果を健診会場に掲示

- 健診時の待ち時間を活用して啓発
- 全保護者に啓発可能

アンケート結果掲示の様子

# 自宅内の事故予防啓発の実績・計画

| | 実績 | | | | | | 計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018～ |
| 「あんあん」配布箇所数 | 取り組み開始 | 45箇所 | 101箇所 | 126箇所 | 126箇所 | 207箇所 | 250箇所 |
| 「あんあん」配布部数 | | ← リーフレット → | | | | ← カレンダー → | |
| | | 45部 | 101部 | 126部 | 326部 | 214部 | 250部 |
| ヒヤリはっとアンケート実施人数 | | 取り組み開始 | 234名 | 154名 | 257名 | 263名 | 400名 |

# 自宅内の事故予防啓発の評価指標

| | | | |
|---|---|---|---|
| 課題① | | 就学前児童は自宅内で転倒・転落によるけがが多いが、十分な安全対策をしている家庭は少ない。 | |
| 目標 | | 就学前児童の自宅内のけがの件数の減少 | |
| 指標 | 意識・知識 | ・自宅内での安全対策に関する認知度 | （測定方法）<br>・安全チェックシート |
| | 態度・行動 | ・自宅内での安全対策に関する実践度 | （測定方法）<br>・けが及び安全安心に関する実態調査アンケート |
| | 状況 | ・自宅内での事故件数<br>受傷割合 | （測定方法）<br>・救急搬送データ<br>・けが及び安全安心に関する実態調査アンケート |

# 自宅内の事故予防啓発の指標に基づく測定結果

◆意識・知識（ 短期指標 ）

（出典：安全チェックシート）

| | 2013 | 2016 | 2017 |
|---|---|---|---|
| 自宅内での安全対策に関する認知度 | 35.5%<br>(n=234) | 96.5%<br>（n=257） | 97.0%<br>(n=263) |

◆態度・行動（ 中期指標 ）

（出典：けが及び安心安全に関する実態調査アンケート）

| | 2014 | 2017 |
|---|---|---|
| 自宅内での安全対策に関する実践度 | 29.0%（n=62）<br>※12項目中6項目以上実践している世帯の割合 | 24.4%（n=86） |

◆状況（ 長期指標 ）

（出典：救急搬送データ）

| | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|---|---|---|---|---|---|
| 自宅内での事故件数受傷割合 | 55件<br>1.0% | 65件<br>1.2% | 54件<br>1.0% | 46件<br>0.9% | 58件<br>1.1% |

（出典：けが及び安全安心に関する実態調査アンケート）

| | 2014 | 2017 |
|---|---|---|
| 自宅内での事故件数受傷割合 | 15件　24.6% | 36件　35.3% |

# 方向性②に対する取り組み内容

| | | |
|---|---|---|
| 方向性② | | 校内のけがの予防意識の向上 |
| 目標 | | 校内のけがの件数の減少 |
| 内容等 | 実施内容 | 校内でのけが発生場所の見える化及び環境改善 |
| | 財源 | 市 |
| | 対象 | 小学生 |
| | 活動 | ・校内安全マップづくり<br>・校内安全マップに基づく施設改善 |
| | 人材 | 対策委員、小学生、教員 |

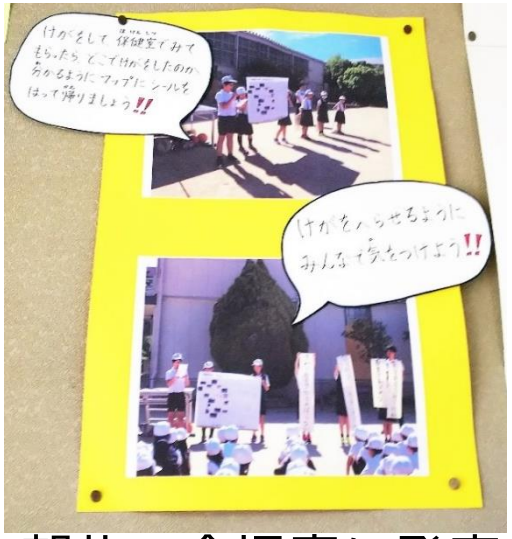
# 校内安全マップづくり

児童自身がけがの発生場所にシールを貼り、作成

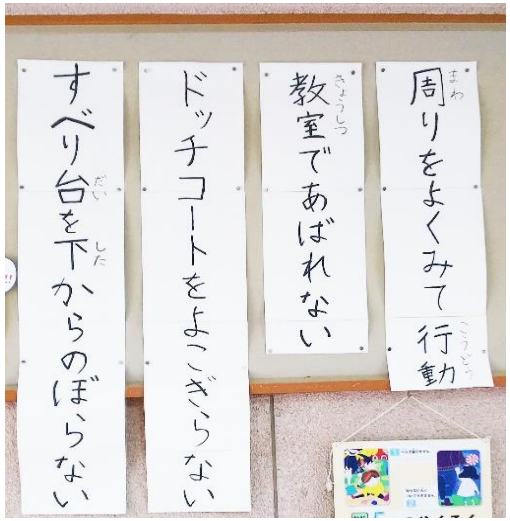
マップをもとにけがの要因について話し合い、全校児童に発表

児童が考えた標語を掲示して、注意喚起を促している

校内安全マップ




朝礼で全児童に発表




児童が考えた標語の掲示

# 施設改善

## 校内安全マップをもとに危険箇所を修繕

### 松原東小学校

- 学校周辺のフェンスの破損を補修
- 体育館の入口や下足室等の鉄柱にソフトカバーを設置

ソフトカバー設置後の様子

### 松原北小学校

- けがの多い築山を撤去
- 剥離したコンクリート通路の補修

築山

撤去後

# 校内安全マップづくり

## 改善計画

けがの予防意識の向上に向けた校内安全マップ
作成実施校の取組みを紹介（2012年～2014年）

↓

安心・安全の取組み紹介により、子どもたちの自主的な
校内安全マップ作成、実施の必要性を周知（2015年～2016年）

↓

対策委員会より各校の拡大マップを配布し、
全校で実施　（2017年～）

# 校内安全マップづくり・施設改善の実績・計画

| | 実績 | | | | | | 計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018～ |
| 校内マップ<br>実施校累計数 | １校 | ２校 | ２校 | ４校 | ７校 | 15校<br>全小学校 | 15校<br>全小学校 |
| 施設改善<br>箇所数 | | | 松原東小学校：１ | 松原東小学校：１ | 松原東小学校：１<br>松原北小学校：３<br>布忍小学校：３<br>中央小学校：２ | 20件 | 順次<br>実施 |
| 対策委員会の<br>関わり | ●マップづくりを学校に要請<br>●改善計画 | | | | | | |

# 校内安全マップ・施設改善の評価指標

| | | | |
|---|---|---|---|
| 課題② | | 小学生は学校での接触や転倒・転落によるけがが多い。 | |
| 目標 | | 校内におけるけがの減少 | |
| 指標 | 意識・知識 | ・危険箇所の認識度 | （測定方法）<br>・アンケート調査<br>（5年生対象）<br>・改善等の報告書で確認 |
| | 態度・行動 | ・行動に注意する割合 | （測定方法）<br>・アンケート調査<br>（5年生対象）<br>・改善等の報告書で確認 |
| | 状況 | ・校内でのけがの発生率 | （測定方法）<br>・災害共済給付データ |

# 校内安全マップ・施設改善の指標に基づく測定結果

◆意識・知識（短期指標）

（出典：アンケート調査（5年生対象））

| | | 2015 | 2016 | 2017 |
|---|---|---|---|---|
| 危険箇所の認識度 | 松原東小学校 | 78% ( n=32 ) | 53% ( n=41 ) | 96% ( n=51 ) |
| | 松原北小学校 | 100% ( n=96 ) | 68% ( n=63 ) | 96% ( n=93 ) |
| | 全体(15校) | | | 82% ( n=921 ) |

◆態度・行動（中期指標）

（出典：アンケート調査（5年生対象））

| | | 2015 | 2016 | 2017 |
|---|---|---|---|---|
| 行動に注意する割合 | 松原東小学校 | 22% ( n=32 ) | 56% ( n=41 ) | 80% ( n=51 ) |
| | 松原北小学校 | 93% ( n=96 ) | 65% ( n=63 ) | 59% ( n=93 ) |
| | 全体(15校) | | | 68% ( n=921 ) |

# 校内安全マップ・施設改善の指標に基づく測定結果

◆状況（長期指標）

（出典：災害共済給付データ）

| | | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 校内での<br>けがの発生率 | 松原東小学校 | 17.5%<br>(72件) | 8.5%<br>(34件) | 10.1%<br>(38件) | 10.8%<br>(40件) | 9.3%<br>(33件) | 10.7%<br>(37件) | 9.0%<br>(29件) |
| | 松原北小学校 | 7.2%<br>(52件) | 7.2%<br>(47件) | 9.5%<br>(59件) | 6.8%<br>(38件) | 7.5%<br>(42件) | 5.0%<br>(27件) | 3.2%<br>(16件) |
| | 全体（15校） | | | | | | | 6.5%<br>(338件) |

# インターナショナルセーフスクール

2015年5月

松原第三中学校

布忍小学校

中央小学校　　計3校で取り組み開始

**2018年1月　　認証取得**

2017年11月

松原第四中学校区、松原第七中学校区で取り組み開始

- 松原第四中学校
- 三宅小学校
- 松原北小学校
- 松原第七中学校
- 恵我小学校
- 恵我南小学校

計6校

**今後、全中学校区へ取り組みを拡大していく**

# 方向性③に対する取り組み内容

| | | |
|---|---|---|
| 方向性③ | | 相談機関の認識度の向上と子育て情報の発信強化 |
| 目標 | | 児童虐待の重篤なケースの減少 |
| 内容等 | 実施内容 | ・相談機関の周知<br>・子育て情報の発信 |
| | 財源 | 市民団体、企業、市 |
| | 対象 | 市民全体 |
| | 活動 | ・児童虐待啓発物品の作成、配布<br>・カレンダー「あんあん」の作成、配布 |
| | 人材 | 対策委員、市民団体 |

# 児童虐待防止啓発物品の作成・配布

家族連れが多く集まる
幅広い年齢層が集まる

**市民まつりで啓発を実施**

協賛を募り、相談機関の連絡先を掲載したうちわを作成
2015年：500枚　2016年：1,000枚　2017年：1,000枚 配布

# 児童虐待防止啓発物品の作成・配布

人が多く集まる
幅広い年齢層が集まる

**市内スーパーで啓発を実施**

相談機関の連絡先を掲載したクリアファイルを作成
虐待防止月間（11月）に　2017年 400部配布

# 児童虐待防止啓発の実績・計画

| | 実績 | | | | | 計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018～ |
| 啓発うちわ配布数 | | 取り組み開始 | 500枚 | 1,000枚 | 1,000枚 | 1,000枚 |
| 啓発クリアファイル配布数 | 取り組み開始 | 450部 | 200部 | 300部 | 400部 | 400部 |
| 対策委員会の関わり | ●うちわ・クリアファイルの作成<br>●うちわの協賛募集<br>●うちわ・クリアファイルの配布 | | | | | |

# 児童虐待防止啓発の評価指標

<table>
<tr><td colspan="2">課題③④</td><td colspan="2">・虐待を見たり聞いたりしても、関係機関等に相談する人は少なく、家族や近隣知人からの相談も比較的少ない。<br>・子育ての負担感は大きく、子育て支援サービス情報を入手しやすいと感じる人は約40%</td></tr>
<tr><td colspan="2">目標</td><td colspan="2">・児童虐待の重篤なケースの減少<br>・子育ての不安感の減少</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指標</td><td>意識・知識</td><td>・児童虐待の正しい理解と通報先等の認識度<br>・子育て支援への満足度</td><td>（測定方法）<br>・次世代育成支援に関するニーズ等調査<br>・松原市政世論調査<br>・けが及び安全安心に関する実態調査アンケート</td></tr>
<tr><td>態度・行動</td><td>・虐待の相談対応件数<br>・子育て支援への満足度</td><td>（測定方法）<br>・松原市福祉行政報告例<br>・けが及び安全安心に関する実態調査アンケート</td></tr>
<tr><td>状況</td><td>・児童虐待に関する重篤なケースの発生件数<br>・子育てに関する不安感</td><td>（測定方法）<br>・松原市福祉行政報告例<br>・次世代育成支援に関するニーズ等調査<br>・松原市政世論調査</td></tr>
</table>

# 児童虐待防止啓発の指標に基づく測定結果

◆意識・知識（ 短期指標 ）

（出典：次世代育成支援に関するニーズ等調査）
（出典：松原市政世論調査）

| | 2013 | 2016 |
|---|---|---|
| 児童虐待の正しい理解と通報先等の認識度 | 14.7%　(n=272) | 17.6%　（n=102） |

◆態度・行動（ 中期指標 ）

（出典：松原市福祉行政報告例）

| | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 虐待相談対応件数 | 289件 | 260件 | 308件 | 398件 | 532件 | 560件 |

※2016年より兄弟・姉妹についてもカウントしている

◆状況（ 長期指標 ）

（出典：松原市福祉行政報告例）

| | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 児童虐待に関する重篤なケースの発生件数 | 14件 | 13件 | 12件 | 36件 | 62件 | 54件 |

# 児童虐待防止啓発の指標に基づく測定結果

◆意識・知識（短期指標）
◆態度・行動（中期指標）

（出典：けが及び安全安心に関する実態調査）

| | 2014 | 2017 |
|---|---|---|
| 子育て支援への満足度 | 37.6%　(n=157) | 43.7%　（n=229） |

◆状況（長期指標）

（出典：次世代育成支援に関するニーズ等調査）
（出典：けが及び安全安心に関する実態調査）

| | 2013 | 2017 |
|---|---|---|
| 子育てに関する不安感 | 28.4%　(n=1,363) | 33.6%　（n=229） |

# 現在の課題と方向性

けがの予防意識の向上に向けた校内安全マップの取り組みの継続

⇨ 安心・安全な学校づくりに向けて主体性を育てる

カレンダー「あんあん」の認識度の向上

⇨ 効果的な掲示場所の検討

⇨ 若い世代への啓発方法（QRコード、子育てネット、応援メールの活用等）を検討する

⇨ 情報を得るつもりがない方への啓発

# 今後の予定

2018年 再認証　　2023年 再々認証

取組①　**身近な子育て情報の発信強化とさらなる充実**
カレンダー「あんあん」の作成・配布
アンケートを用いた情報発信

取組②　**学校におけるけがの予防と意識の向上を図る**
校内安全マップの活用と充実

取組③　**児童虐待防止を啓発し広げていく**
うちわ・クリアファイル等啓発物品の作成・配布
アンケートを用いた情報発信

取組④　**自宅内でのけが予防に対する意識の向上**
自宅内でけがが多く発生している場所や、乳幼児のけがについてのアンケート結果を掲示し、情報発信を行う。

# ご清聴ありがとうございました

大阪初！セーフコミュニティ国際認証都市まつばら
「みんなでつくる　安心・安全なまちづくり」